



TITLE:

分業ヲ論ジテ福田博士ノ教ヲ請フ (一)

AUTHOR(S):

高田, 保馬

CITATION:

高田, 保馬. 分業ヲ論ジテ福田博士ノ教ヲ請フ(一). 經濟論叢 1918, 6(6): 780-794

ISSUE DATE:

1918-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127391>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷六第

行發日一月六年七正大

論 說

生命保險業者ノ保健運動

法學博士 財部 靜治

植民地統治ノ形式ニ就キテ

山本美越乃

分業ヲ論ジテ福田博士ノ教ヲ請フ

文學士 高田 保馬

所得稅ニ於テ所得ノ統一課稅ニ就テ

法學博士 神戶 正雄

職工組合論

法學士 河田 嗣郎

露國ノ新まりるくす主義

柴田庄太郎

諾威ノ海運

法學士 小島昌太郎

時事問題

米價ノ調節

法學博士 戸田 海市

雜 錄

元祿年間貨幣改鑄ノ由來

藤田 元春

戰費トハ何ゾヤ

法學士 小島昌太郎

赤穂ノ鹽田

法學士 本庄榮治郎

分業ヲ論シテ福田博士ノ教ヲ請フ(二)

高田保馬

頃日福田法學博士著國民經濟講話前冊勞働經濟講話一冊ヲ市ニ得テ歸來直ニ之ヲ精キタリシガ、理義ノ透徹、叙述ノ明快ニ鈞
込マレテ一讀卷ノ終ルヲ覺エズ、中ニ就イテ特ニ吾人ノ興味ヲ覺エタルハ分業ヲ論シタル勞働ノ組織ノ一章ナリ。吾人ハ分業ニ
關シテ久シキ以前ヨリ幾分ノ注意ヲ拂ヒ來レル一人ナレドモ、非才ト怠慢トノ爲ニナホ未ダ此問題ニ關シテモ何等ノ貢獻ヲ遂
ル事能ハズ。タダ此家ヲ啓カンガ爲ニ先輩學者ノ高教ヲ待ツ事切ナリシモ、不幸ニシテ、過去ノ我學界ニ於テハ未ダ此研究ニ特
別ノ努力ヲ拂ハレタル作物ヲ見出ス事ヲ得ズ、常ニ自ラ遺憾トシタリキ。然ルニ今博士ガ其著書ニ於テ約百頁ヲ割キ合業分業ヲ
詳論セラレタルアリ、久シク念トシタリシ問題ニ關シテ學界ノ眷宿タル博士ノ高教ニ接スル事ヲ得、衷心感謝ト喜悅トヲ禁ゼザ
ルナリ。然レドモ恐ラク吾人ノ思想ノ極メテ未熟ナル結果トシテ、博士ノ所說ニハ二三充分ニ丁解シ得ザル點無キニ非ズ。吾人
ハ今茲ニ此等ノ疑點ヲ掲ゲ以テ博士ノ高教ヲ請ハント欲ス、
勿論本篇執筆ノ動機ハ此ノ如ク如上ノ疑點ニ關スル高教ヲ請ハントスルニアリ。然レドモ吾人ノ疑點ノ内容ヲシテ充分明瞭ナラ
シメンガ爲ニハ自ラ分業ニ關シテ有スル未熟ノ私見ヲモ開陳スル必要ヲ感ズ。殊ニ往年ノ小著『分業論』以來今日ニ及ビテ幾分
考ヘ直セシ點モ之無キニ非ザルガ故ニ、此機ヲ利用シテ現在ノ私見ヲ略述スル事ハ其ノミニテモ無用ニ非ズト信ズルナリ。今此
篇ヲ二分シ前半ハ之ヲ私見ノ開陳ニ充テ後半ハ高教ヲ仰ガントスル問題ノ叙述ニ劃カントス。筆者ノ不敏、文辭ノ拙劣ノ爲ニ論
中或ハ禮ヲ博士ニ失スル無キカヲ恐ル。切ニ博士ノ寬恕ヲ祈ル。

吾人ノ見ル所ニヨレバ、多數ノ人々ノ相異レル仕事ニシテ共同ノ效果ニ向ヘル事實コレ即チ分業

ニ外ナラズ。此分業觀念ハ一般ノ通説ト趣ヲ同ジクスルモノニシテ、云ハバ何等ノ特徴ナキ見解ナリ。今此内容ヲ一層明白ナラシメンガ爲ニ一般ノ説明ヲ加フ可シ。分業ノ觀念ハ先ヅ要素トシテ多數人ノ異ナレル仕事ノ觀念ヲ含ム。然レドモ固ヨリ此要素ハ分業ノ全觀念ヲ形成スルニ足ラズ。甲ハ山ニ狩シテ其衣食ノ資ヲ得、乙海ニ漁リテ其生命ヲ維持スル事アルモ、其レノミニテハ未ダ分業ヲ生ゼズ、假ニ男女ノ經濟ガ別々ニ獨立シタル時期アリト假定センカ、此時仕事ノ差異アルモ勿論未ダ分業無シ。分業觀念ノ第二要素ハ共同效果ニ向フト云フ事實ナリ、即チ異ナレル仕事ノ分擔セラルルノミナラズ、此等ノ仕事ガ共同ノ效果ニ寄與スル事實ナリ。社會内ニ於ケル漁夫ト獵人トガ分業ノ關係ニ立チ今日ノ家族内ノ男女ノ仕事ガ亦家族的分業ヲ形ヅクルモノ、一ニ各自ノ仕事ノ共同效果ニ向ヘルガ故ナリ。然レドモ、吾人ノ所信ヲシテ誤解ナカラシメントセバ尙此點ヲ詳説セザル可カラズ。

茲ニ仕事ノ效果ト稱スルハ一定ノ仕事ノ結果トシテ生ズル特定人ノ欲望充足ニ外ナラズ。從ヒテ數多ノ仕事ガ一定主體ノ同一欲望ヲ充足セシムル時ソハ共同ノ效果ニ向フト云フナリ。此欲望充足ニハ種々ナル場合アリ。一、仕事ノ結果ガ消費者又ハ享樂者ノ欲望ヲ直接ニ満足セシムル場合、二、仕事ノ結果ガ他ノ仕事ヲ營ムモノニ取リテ必要ナル原料手段ノ供給トナリ、從ヒテ直接ニハ他人ノ仕事ノ欲望ヲ充足セシメ、間接ニハ他人ノ仕事ノ結果ヲ通シテ消費者享樂者ノ欲望ヲ充足

セシムル場合、三、仕事ノ結果ガ之ヨリ生ジ來ル利益ニヨリテ經營者自身ノ欲望ヲ充足セシムル場合、コレナリ。但シ第二ノ場合ハ獨立シテ現ハレズ、第一又ハ第二ノ場合ニ伴ヘリ。例ヲ擧ゲテ説明セン。今大工左官ガ家ヲ建築シタリトセバ其仕事ノ結果ハ居住者ノ居家ノ欲望ヲ直接ニ満足セシムルナリ。棉花栽培者ト紡績職工トガ糸ヲ造リ上グル時ハ彼等ノ仕事ノ結果ハ織物職工ニ仕事ノ原料ヲ供給シテ其仕事ノ欲望ヲ充足セシメ、間接ニハ織物職工ノ仕事ノ結果ヲ通シテ享樂者ノ欲望ヲ充足セシムルナリ。工場内ノ分業ニ於テ數多ノ仕事ノ結果ニヨリ業主ガ巨額ノ利益ヲ得ル事アラバ、コレ即チ所謂經營者自身ノ欲望ヲ充足セシムルナリ。第二ノ場合ハ姑ク措ク。第一第二ノ場合ハ共ニコレ仕事ノ結果ガ仕事ノ從事者以外ノ欲望ヲ共同的ニ充足セシムルモノナルガ、此ノ如ク數多ノ仕事ノ結果ガ同一欲望ヲ充足セシメ從ヒテ此等ノ仕事ガ共同效果ニ向フト認ム可キ根據次ノ如シ。即チ數多ノ異ナレル仕事相互ノ間ニハ一定ノ關係アリ、云ハバ分チ難キ聯絡ヲ保チ、孤立シテハ全然又ハ充分ニ欲望ヲ充足セシメ仕事ノ效用ヲ發揮スルヲ得ズ。而シテ此聯絡ノ關係ハ三種ニ大別スル事ヲ得。

最初ニ擧グ可キハ連續ノ關係ナリ。此關係ノ存スル所、甲乙丙數多ノ人々ノ異ナレル仕事ハ連續的ニ而モ一定ノ順序ニ於テ同一ノ對象ノ上ニ行ハレ、カクテ前者ノ仕事既ニ行ハレザル以上後者ノ仕事ハ行ハルル事ヲ得ズ、後者ノ仕事ノ加ハラザル以上前者ノ仕事ノ結果ハ其充分ナル效用ヲ

發揮スル事能ハズ。從ヒテ此等ノ仕事ハ相合一シテ始メテ同一欲望ノ充足ト云フ共同の效果ヲ舉グル事ヲ得ル譯ナリ。麥耕作者、製粉業者、パン焼、パン行商等ノ仕事ノ如キ、棉耕作者、航海業者、紡績職工、織物職工、染物屋、呉服屋、仕立屋等ノ仕事ノ如キ皆コレナリ。次ニ數フ可キハ補充ノ關係ナリ。甲乙丙等夫レ夫レノ異ナレル仕事ガ時ヲ同ジクシテ行ハルルトハ云フモノ、或ハ一方ノ仕事無クシテ他方ノ仕事ノ遂行ノ不可能ナルモノアリ、或ハ各獨立ニ仕事ノ行ハレ得トスルモ一方ノ仕事ヲ缺イデハ他方ノ仕事ノ效果ノ充分ニ擧ラザルモノアリ、或ハ種々ナル部分的欲望ヲ集團的ニ一欲望トシテ考フル時ソレヲ異ナレル仕事ヲ俟ツニ非ズバ此一欲望ノ充足シ盡サレザル事アリ。此等ノ場合、仕事相互ノ間ニ補充ノ關係アリト云フ。舵手ノ仕事ト漕手ノ仕事、汽船火夫ノ仕事ト運轉士ノ仕事ノ如キハ第一ノ場合ニ屬ス可ク、左官、大工、屋根職等ノ仕事ノ如キ、醫師ノ諸分科ノ仕事ノ如キハ第二ノ場合ニ屬ス可ク、インキ、メン、紙ノ製造ノ諸仕事ノ如キ、靴ノ製造、衣服ノ仕立、帽子ノ組上ノ諸仕事ノ如キ、更ニ眼界ヲ廣クシテハ衣服ヲ給スル紡織裁縫ノ仕事ト食物ヲ給セル農夫漁民ノ仕事トノ如キ、或ハマタ、一定ノ製造業ニ必要ナル雖多ノ機械原料等ノ生産ニ關スル種々ノ仕事ノ如キ、此等ハ皆第三ノ場合ニ屬ス。連續ノ關係補充ノ關係ト相併ビテ最後ニ述ブ可キハ、從屬ノ關係コレナリ。甲乙ノ異ナレル仕事アリ、甲ノ仕事ハタダ乙ノ仕事ヲ指導シ安排スル事、即チ乙ノ仕事ヲ貫流ス可キ意志ノ構成表示ニ存

シ、乙ノ仕事ハ此意志ニ從ヒテ一定ノ對象ノ上ニ活動ヲ加フル事ニ存スル時ハ二ノ仕事ノ間ニ從屬ノ關係アリト云フ。乙ノ仕事ハ甲ノ仕事ニ後ルルニ非ズバ行ハレズト云フニ非ズ、又甲ノ仕事ト相俟ツニ非ザレバ充分ニ其效用ヲ發揮シ得ザルニ非ズ、從ヒテ此場合ノ二ノ仕事ノ關係ハ前ニ述べタルモノトハ自ラ異ナレル一種類ヲナスト認メ得可シ。吾人嘗テ此關係ヲ認メザリシカド、今ハ之ヲ特ニ掲ゲテ連續補充ノ二關係ト對立セシムル事ノ妥當ナルヲ信ズ。

此ノ如ク述べ來レバ吾人ガ分業ノ概念ハヤガテコレ所謂複雜協働ノ概念ナル事自ラ明ナラン。一般ニ協働ト云フハ、多數人ノ仕事ガ共同ノ效果ニ向ヘル事ヲ意味ス。此等ノ仕事ガ同質ナル時、即チ略性質ヲ同ジクスト認メラルル場合ニ於テ協働ハ單純協働ナリ、此等ノ仕事ガ異質ナル時即チソレゾレ相異ナル場合ニ於テ協働ハ複雜協働ナリ。普通、合力又ハ合業ト云フモノハ前者ニシテ分業ハ後者ニ當ル。此點ニ關シテ吾人ハマタ通説ノ盲從者ナリ。カクテ複雜協働ト分業トハ相表裏ス、云ハバ同一ノ内容ヲ異レル一角ヨリ見タルガ爲ニ名稱ヲ異ニスルニ外ナラザルナリ。從ヒテ、一分業ノ範圍如何ハ即チ一複雜協働ノ範圍如何ニ外ナラズ、一二共同ノ效果ノ何物ナルカニヨリテ決定セラル。而シテ此共同ナル效果ハ一定欲望ノ充足可能ニ外ナラザルガ故ニ、一分業ノ範圍ヲ決定スルモノハ全ク之ニヨリテ充足セラル可キ一欲望ノ内容ニ外ナラザルナリ。然ルニ吾人ガ客觀的ナル立場ヨリシテ如何ナルモノヲ一ノ欲望トシテ考フルヤハ、著シク任意ノ意志ニ

ヨリテ左右セラレ得ル事柄ナリ。從ヒテ、一分業ノ範圍ハ決シテ確定セルモノニ非ズ、何ヲ以テ一ノ欲望ト見ルカニヨリテ著シク變化シ動搖ス可シ。加之、假ニ充足セラル可キ一欲望ノ内容ガ固定的ノモノニシテ任意ノ伸縮ヲ許サズト假定スルモ、一ノ分業範圍ト他ノ分業範圍トガ截然トシテ相分タレ一方ニ屬スル仕事ハ決シテ他方ニ屬シ得ズト云フガ如キモノニハ非ズ。例ヘバ綿糸ノ紡績ハ綿布ノ製造 關スル分業ノ範圍ニ屬スレドモ、マタ漁網、曳網ノ製作ニ關スル分業ノ範圍ニ屬スト見得可キガ如シ。カクテ、一分業ノ範圍從ヒテ一複雜協働ノ範圍ハ吾人ノ眼中ニ置ク所ノ充足セラル可キ欲望如何ニヨリテ、無數ニ存在シ無限ニ錯綜シ、其結果マターノ仕事ハ多數ノ分業範圍ニ同時ニ分屬ス。此狀態ハ社會ト其成員トノ關係トニ異ナル事無シ。社會ノ發達シテ社會的錯綜愈加ハルニ伴ヒ、個人ハ同時ニ多數ノ社會ニ對シ其成員トシテ分屬スルナリ。

吾人ノ分業觀念ハ其本質ニ於テ世上ノ通説ト何等ノ異ナル所無シト雖モ、タダノ一目的又ハ一ノ仕事ノ觀念ヲ要素トシテ挿入スル事ヲ避ケタリ。分業ニ於テ、吾人多クハ數多ノ人々ノ仕事ヨリ生ジ來ル結果ヲ目的トシテ意識シ居ルモノニ非ズ。分業ヲ以テ同一ノ目的ヲ有スル數多ノ相異ナレル仕事ガ人々ニヨリテ分擔セラルル事トナス見解ハ簡明ニシテ要ヲ得タレドモ、タダ此目的ノ觀念ガ誤解ヲ招キ易シ。目的ト云ヘバ常ニ仕事ノ從事者ノ意識ニ存スル目的トシテ考ヘラル可シト雖モ、彼等ハ所謂意識的協働ノ場合ノ外全體ノ仕事ノ目的ヲ意識スルモノニ非ズ、意識スル所

ノ目的ハ恐ラク一身ノ利害ニ存センノミ。マタ一ノ仕事ト云フ觀念ハ之ヲ常ニ一人ノ營メル仕事ノタメニ留保スルヲ便ナリトス。協働ニヨリテ到達セラル可キ全體ノ仕事ノ爲ニハ他ノ表現ヲ用フ可シ。加之、一ノ仕事ト云フ時ハ其範圍ガ客觀的ニ限定セラレ居ルヤニ考ヘラレ易シ。然ルニ複雑協働ノ全體ノ仕事ハ前述ノ如ク觀察者ガ眼中ニ置ク所ノ欲望如何ニヨリ如何トモ變動シ伸縮スルモノニシテ、カカル觀察者ノ任意ヲ離レ固定のニ一ノ仕事ノ單位ト云フモノノ存在スル事無し。此點ニ關スル誤解ヲ避ケン爲ニ吾人ハ一ノ仕事ト云フ觀念ヲ挿入セザリシナリ。若シ適當ノ解釋ヲ加フルヲ得バ、一ノ目的の一ノ仕事ト云フ要素ヲ加フル事、ふいりほむち、ちいど等ノ如クナルモ決シテ妨ケザルナリ。

カクテ吾人ノ分業觀念ハ云ハバ靜的ノモノニシテ一ノ狀態ヲ意味スルニ外ナラズ。複雑協働ノ一側面トシテ、ソハ現在新ニ仕事ノ分岐シツツアル過程ヲ意味セズ、分業ト云フモ全然假設の事ニシテ、共同ノ效果ニ向ヘル數多ノ仕事ノ總體即チ一全體トシテノ仕事ガ刻々ニ多數ノ人々ニ分課セラレツツアル狀態ヲ示セルナリ。而シテ、社會發達ノ歷程ニ於テ漸次各人ノ仕事ノ異質性ヲ加ヘ行ク過程、即チ分業ノ成立過程ニ至リテハ、吾人今之ヲ仕事ノ分岐ノ名稱ヲ以テ呼バント欲ス。仕事ノ分岐ハ之ヲ仕事ノ分化ト仕事ノ添加トノ二ニ大別スル事ヲ得可シ、先ヅ前者ヨリシテ之ヲ説カン。今マデ一人ノ仕事ノ一部分ナリシモノ、又ハ數人ノ異ナレル仕事ノ諸部分ナリシモ

ノガ、新ニ獨立シテ一人ノ仕事トナルニ至ル過程ヲ仕事ノ分化ト云フ。此過程ハ一方仕事ノ内容ノ見地ヨリ、他方仕事ノ企業ニ對スル關係如何ノ見地ヨリ、二様ニ分類セラルル事ヲ得可シ。

先ヅ仕事ノ内容ノ見地ヨリ考ヘ來ルニ、此分化ノ過程ハ三分セラル。一ハ既存ノ仕事ノ中ニ含まレタル指導的命令的部分ノ分離シテ一人ノ仕事トナル事ナリ。二ハ一ノ仕事ノ對象ノ上ニ連續的ニ加ハル仕事ノ諸段階中其一部分ガ獨立シテ一人ノ仕事ト化シ去ル事ナリ。三ハ既存ノ仕事ガ數多ノ對象ニ加ハル時其對象中ノ一部分ノモノニ加ハル仕事ノミヲ離シ來リテ一人ノ專業トナス事ナリ。此等ノ分化過程ハ夫レ夫レ、上下ノ分化、前後ノ分化、左右ノ分化ト名ヅクル事ヲ得可シ。前ニ、複雜協働ノ部分的仕事相互ノ聯絡關係ニ從屬、連續、補充ノ關係アリト説キタリシガ、一個人ノ仕事ノ各部分間ニモ勿論カカル關係アリ、カカル關係ヲ有スル此部分仕事ヲ分化セシムル時、其關係ノ性質ニ應ジテ夫レ夫レ此等ノ分化過程ヲ生ズ。而シテカカル仕事ハ相分化シタル後ニ於テモ、自然或程度ニ於テカカル聯絡關係ヲ保持スルモノナリ。次ニ此仕事ノ分化ヲ他ノ見地ヨリ考ヘン。分化ニヨリテ新ニ成立シタル仕事ガ一種獨立ノ企業ヲ形ヅクルカ、又ハ既存ノ一企業内ニ於ケル仕事ノ一部ヲナスニ過ギザルカニヨリテ、此分化ハ職業的の分化技術的の分化ノ二種ニ大別スル事ヲ得可シ。

而シテ職業的の分化ハ更ニマタ、ソガ新ナル種類ノ成立ヲ意味スルカ、既存ノ職業ノ分化ヲ意味ス

ルカニ從ヒテ、第一次の第二次的ノ二者ニ分ツ事ヲ得ン。次ハヒヤアノ職業分業ハ第一次の分化ニ當リ、專業分業及ビ生産分業ハ第二次の分化ニ當リ、作業分業ハ技術的分化ニ當ル。以上見地ヲ異ニセル二種ノ分類ヲ擧ゲタルガ、此分類ハ相交叉スル性質ヲ有シ、從ヒテ、第一次の第二次的ノ職業的分化、技術的分化共ニ上下、前後、左右ノ三種ノ分化ヲ含ミ、ココニ九種ノ小區分ヲ生ズ。轉ジテ仕事ノ分岐ノ他ノ模式即チ仕事ノ添加ヲ考ヘン。此仕事ノ添加ハ既存ノ仕事ニ對スル内容上ノ關係ヨリ、補充の仕事ノ發生、仕事ノ新創、仕事ノ移入、仕事ノ移動(又ハ推轉)ニ區分シ得ラルル事嘗テ論ジタル所ノ如シ。今冗長ニ陷ラン事ヲ恐レテ敢テ説明ヲ省略ス。而シテ更ニ他ノ見地ヨリ見ルニ、此仕事ノ添加モ亦新ニ一人ノ仕事トシテ成立シタルモノガ、既存ノ仕事ニ對シテ、連續、補充、從屬ノ何レノ關係ニ立ツカニヨリ前後ノ添加、左右ノ添加、上下ノ添加ニ三分セラレ、マタ新ナル仕事ガ獨立ノ企業ヲ形ヅクルカ否カニヨリテ、職業的添加技術的添加ニ區別セラル可シ。從ヒテ此二分類ノ交叉ハ六ノ小別ヲ生ジ來ル。仕事ノ分化ト添加トヲ總稱シテ仕事ノ分岐ト云フ時ハ、此分岐ハ常ニ職業的分岐技術的(又ハ勞働的)分岐ノ二者ヲ含ムモノナリ。ナホ、分業ノ成立過程ニ關スル知識ヲ完カラシメントセバ、此他別ニ仕事ノ散在即チ散業ノ存在ヲ忘ル可カラズ。生理的又ハ地理的歴史的事情ニヨリ人々ノ仕事ガ本來相異ナレル事アルヲ意味スルナリ、此點ニ就イテハ亦嘗テ詳論シタル所今ココニ反覆セズ。

分業(複雜協働)

- 一、連續的分業
- 二、補充的分業
- 三、從屬的分業

イ、分立シテハ仕事ノ遂行不能ナルモノ (Arbeitsverbindungヲ含ム)
ロ、分立シテハ效用ノ發揮不十分ナルモノ
ハ、分立シテハ一團ノ欲望ノ充足セラレザルモノ

- 一、仕事ノ分散 (Arbeitsreueung)

イ、生理的條件ヨリ生ズルモノ (男女老若間ノ分業ノ一部分)
ロ、地理的條件ヨリ生ズルモノ (地方的國際的分業ノ一部分)
ハ、歴史的條件ヨリ生ズルモノ (文明國ト未開國ニ於ケル仕事ノ差異ノ如キ)

イ、第一次的職業的分化 (Berufsbildung)
ロ、第二次の職業的分化

- 二、仕事ノ分化

a. 上下的 (Produktionsteilung)
b. 前後の (Spezialisaton)
c. 左右的

ハ、技術的分化 (Arbeitszerlegung)

a. 上下的
b. 前後の
c. 左右的

分業ノ成立過程

- 三、仕事ノ添加

イ、補充の仕事ノ發生
ロ、仕事ノ新創 (Arbeitschöpfung)
ハ、仕事ノ移入
ニ、仕事ノ移動 (Arbeitsverschiebung)
イ、職業的添加
ロ、技術的添加

a. 上下的
b. 前後の
c. 左右的
a. 上下的
b. 前後の
c. 左右的

(註) 挿入シタル外國語ハ Arbeitsteilung (Richard Lasch) Arbeiterschöpfung (Petrenz) ナ除ク外ハハハハ用ヒタル所ナリ。

因ニナホ、單純協働即チ合業ノ形態ヲ概觀ス可シ。分業ノ場合ニ於ケルガ如ク、此場合ニアリテ

2) Richard Lasch, Arbeitswesen der Naturvölker. Zeitschrift für Sozialwissenschaft. 1908.
3) Petrenz, Entwicklung der Arbeitsteilung in Leipziger Gewerbe von 1751 bis 1896. 1901.

モ、種々ナル仕事ノ間ニハ一定ノ聯絡關係アリ、連續ノ關係補充ノ關係即チコレニシテ、從屬ノ關係ハ此際存在スル事ヲ得ズ。此聯絡關係ノ差異ニヨリテ合業ノ形態ハ種々ニ小分セラルル事ヲ得可シ。合業ノ觀念ノ中心要素ハ仕事ノ同質的ニシテ相異ナラザル事、多數人ノ仕事ガ共同ノ效果ニ向フ事ニ存ス。然ルニ此等ノ仕事ハ其間連續ノ關係存スルガ故ニ共同效果ニ向フ事アリ。カカル場合ノ二三例ヲ舉グ可シ。汽船ニ石炭ヲ積込ムニ當リテ數多ノ勞動者ハ階段ノ上ニ列ヲナシテ立チ此列ノ上端ハ船中ノ炭艙ニ及ビ下端ハ石炭ヲ滿載シ來レル小船ノ上ニ位メ。石炭ヲ盛レル竹製ノ容器ハ下端ノ人ヨリ順次上方ニ傳ヘラレ最後ノ人ニヨリテ艙中ニ投ゼラレ空ナル容器ハ小船ノ上ニ投下セラル。此間他ノ幾多ノ容器ハ順次上ニ送ラレツツアルナリ。此場合各人ノ同質的ナル仕事ハ連續ノ關係ニ立ツ。マタ九州ノアル地方ニハ水中ノ泥土ヲ掘上ゲテ田圃ノ中ニ乾カシ以テ肥料ニ供スル所アリ。此仕事ハ大抵春ニ四月農閑ノ頃ヲ以テ行ハルルモノナルガ、前ノ例ト同ジク、人々ハ幾ツカノ列ヲナシ、各列ノ上端ハ田圃ニ立チ下端ハ水ヲ汲上ゲタル壕中ノ泥土ニ立ツ。各自『勘兵衛』ト稱スル木製ノ枕^{シヨセル}トモ見ル可キ道具ヲ有ス。下端ノ人ノ『勘兵衛』ハ『先ガケ勘兵衛』ト稱シ尖端ニ鐵板ヲ附シテ土ヲ掘ルニ便ナラシム。泥土ハ下端ノ人ヨリ順次上方ニ傳ヘラレ大抵四五人目ニ位スル上端ノ人ニヨリテ田圃ノ中ニ積重ネラル。此場合ニ於ケル各人ノ仕事ノ關係マタ前例ト異ナル事無シ。マタリレハ競走ヲ見ルニ、其活動ハ普通ノ場合一種ノ仕事ナリトハ

認メ難シト雖モナホ諸種ノ活動間ニ同様ナル關係ノ存スルヲ見ル可シ。古クハ我國ノ驛々ヲ飛脚ノ通過スルニ當リテモ、一定ノ人足ハ或區間ダケ其籠ヲ擔キ次ノ區間ハ他ノ人足ヲシテ代ラシム。今日山間ノ交通不便ナル地方ニアリテハ郵便物ノ遞送ナホ同様ナル方法ニヨレリ。加之、眼ヲ轉ズレバ今日ノ鐵道ノ驛々ニ於ケル驛員ノ仕事ノ如キ、郵便電信ニ關スル仕事ノ如キ、相互ノ間ニ亦如上ノ關係ノ存スルヲ見ル。一層視野ヲ廣ムル時ハアラユル文化ノ發達——社會學者ノ所謂社會的功績⁴⁾又ハ歴史性⁵⁾——亦此關係ニヨリテ可能ナリト考ヘ得可キナリ。此ノ如ク單純協働又ハ合業ニシテ仕事相互ノ間ニ連續的關係ノ存在スル場合ニハ之ヲ假ニ稱シテ傳業(生硬ニシテ恐ラク意義ヲナサザル可シ、今ハタダ一ノ符號トシテ此語ヲ用フ)ト云フ。此傳業ハマタ仕事ノ傳達セラルル方向ガタダ一方のナル事前ノ石炭遞送、泥土堀上ノ場合ノ如クナルカ、交互的ニシテ飛脚又ハ郵便物ノ遞送ノ如クナルカニ從ヒテ一方の傳業、交互的傳業ノ二種ニ區別シ得可キナリ。此中、一方の傳業ハびゅびやあノ交調連業(Wechselskarbeit)ト或點ニ於テ相似ルモノ無キニ非ザレドモ、他ノ點ニ於テ著シク相異ナル事ハ容易ニ看取シ得ラルル所ナリ。此等ノ傳業ガ如何ニシテ仕事ノ效果ヲ助長スルカ、勞働ノ生産力ヲ大ナラシムルカハ煩雜ヲ厭ヒテココニ詳說セズ。合業ハマタ仕事相互ノ間ニ補充ノ關係ヲ含ムモノアリ。此際各ノ仕事ハ同時ニ行ハルルモ(連續的ニ行ハルトスルモ其順序ハ可變的ナリ)獨立シテハ充分ニ效果ヲ舉グル事能ハズ、相同一

4) Ward, Pure Sociology, 1907. p. 15 et passim.

5) Frapapane, Contrattualismo e sociologia contemporanea. 1892. p. 118.

シテ一定ノ欲望ヲ充足セシムルナリ。此場合ノ合業ハ即チびひやあノ所謂集業 (Arbeitshäufung) ニシテ、單純集業 (Einfache Arbeitshäufung) 連鎖集業 (Arbeitsverkettung) ヲ含ム。若シサキニ分業ヲ三種ニ分チタル標準ニ從フ時ハ一、分立シテハ仕事ノ遂行不可能ナルモノ (數人ニテ巨石ヲ扛グル如キ、巨獸ノ捕縛ノ如キ)、二、分立シテハ效用ノ發揮不充分ナルモノ (敵ノ防衛、大木ノ伐採ト云フ如キ)、三、分立シテハ一團ノ欲望ノ充足セラレザルモノ (仕事ハ各自獨立ニ行ハルルモ一定ノ期間ヲ限レル場合ノ如キ) ノ三トナス事ヲ得可シ。此中最後ノモノニアリテハ從業者ハ殆ド相獨立シテ他人ノ仕事ニ顧慮スル所無ク其仕事ヲ營ム事ヲ得。所謂單純集業ナリ。初メノ二ノ場合ニアリテハ常ニ各人ノ仕事ノ間ニ一定ノ計劃按排アルヲ要シ、仕事ノ際互ニ策應シ互ニ調節ス。之ヲ假ニ稱シテ複雜集業ト稱ス可ク、びひやあノ連鎖集業ハ其一部ニシテ、残りノ部分即チ別ニ調子ニヨラザル部分ハ調和集業トモ稱ス可キナリ。

合 業

一、倣業 {イ、一方的倣業
ロ、交互的倣業}

二、集業 (Arbeitshäufung) {イ、單純集業 (Einfache Arbeitshäufung),
ロ、複雜集業 {a、調和集業
b、連鎖集業 (Arbeitsverkettung)}}

合業ニ關シテハ本篇ノ主題ヨリ見テ事餘談ニ亘ルガ故ニコレ以上ノ説明ヲ加ヘズ。今最初ノ分業觀念ニ立歸リテ、吾人ガ分業ヲ一ノ狀態トシテノミ考ヘ、仕事分歧ノ過程トシテ考ヘザリシ理由

ヲ一言ス可シ。分業ノ何物ナルカニ關シテハ、ソガ眼前ノ一大事實ナルガ故ニ何人ト雖モ略心ニ會得スル所アリ。あだむ・すみすガ分業ニ關シテ何等ノ定義ヲ與フル事ナク、一二ノ舉例ヨリ進ミテ直チニ其結果ヲ説キ原因ヲ説キタリシガ如キ、でゆるけむ、じむめる、ぶうぐれ等ノ社會學者ガ分業ヲ論ズルニ當リ何等シノ概念ヲ明ニセントセザリシガ如キ、必ズシモ其態度ヲ責ム可キニ非ズ。然ルニ拘ハラズ、一步ヲ進メテ分業ノ内容如何ヲ精確ニ決定セントスル時ハ非常ナル困難ヲ感ズ。

勿論分業ハ經濟學上ニ於テ重要ナル觀念ナルト同時ニ、社會學ニ於テモ同様ナル旨趣ヲ有ス。而シテ科學的觀念ノ決定ガ學ノ認識目的ニヨリテ決定セラル可ク、從ヒテ同一ノ分業ノ概念ニテモ之ヲ取扱フ學問ノ差異ニヨリテ内容ヲ異ニシ得可キハ當然ノ事ナリ。タダ吾人ノ見ル所ニヨリテハ、社會學ト經濟學トニ於ケル分業概念ハ別ニ異ナル所アル可キ必要ヲ認メザルノミ。サテ從來分業ノ概念ハ如何ナル點ニ於テ經濟學上ニ重要ヲ有シタルカ。吾人思フニ、分業ノ經濟學的重要ハあだむ・すみす以來無數ノ經濟學書ノ示スガ如ク、一種ノ勞動組織トシテ著シク生産力ヲ増加セシムル一點ニ歸着ス。然ルニ、仕事ノ分化(仕事ノ添加ヲ意味セズ)ノ過程ソノモノハ勞動組織ト見ル可キニ非ズ、生産力増加ノ結果ヲ直接ニ生ジ來ルモノハ、人々ノ仕事ノ相異ナレル狀態、即チ狀態トシテノ分業ニアリ。加之、仕事ノ差異ハ仕事ノ分化ニ負ヘルト然ラザルトヲ問ハズ、皆

生産力ノ上ニ同様ナル效果ヲ及ボスモノニシテ、過程トシテノ分業即チ仕事ノ分化ノ場合ト、學者ノ高調スル此種ノ生産力増加ノ場合トハ其範圍ニ於テ著シク相違シ、前者ノ範圍ハ後者ノ範圍ノ一部分ヲ形ヅクルニ過ギズ。此等ノ理由ニヨリテ、吾人ハ分業ヲ以テ一ノ過程ナリト考ヘズ、之ヲ以テ相異レル仕事ノ共同ノ效果ニ向フ狀態ナリト見ルヲ可ナリト信ズ。加之、合業トノ關係ハマタ分業ヲ以テ一ノ狀態ナリト認ムルノ妥當ナルヲ思ハシム。分業ガ合業ト相併ビテ勞働組織ノ一半ヲ形成ストハ多クノ學者ノ認ムル所ナリ。勿論勞働組織ヲ二分シ一半ヲ以テ合業一半ヲ以テ分業ナリト認メザル可カラズト云フ何等ノ理論的根據モナシ。然レドモ、若シカカル見方ニシテ採用セラレタル以上ハ、分業ト合業トヲシテ相對立ス可キ性質ヲ有セシメザル可カラズ。然ルニ合業ガ同質の仕事ノ行ハルル狀態ニシテ、此等ノ仕事ノ初メテ組合セラルルニ至ル所ノ道行ニ非ザル事ハ何人モ疑ハザル所ナリ、然ラバ之ト相對立セシメラル可キ分業ノ觀念マタ、史上ニ於テ仕事ノ分化シ行ク道行タル可カラズシテ、異ナレル仕事ノ行ハレンノ共同ノ效果ニ向ヘル狀態ナリト考フ可キナリ。對立ハ差異ト共ニ根本ノ類似ヲ豫想ス、一方ガ狀態ニシテ他方ガ過程ナランニハ其間對立ヲ考ヘ得ル餘地ナキナリ。カクテ、合業ト分業トヲ勞働組織ノ補完的ニ二部分ト考フル一般の見解ヲ成立セシメンガ爲ニハ分業ヲ以テ過程ナリト見ズ、一ノ狀態トシテ見ル可キ事ヲ主張セント欲スルナリ。